

1年の計は元旦にあり というよりも、それは3月にあり と言うのが教育的な仕事をしている私たちの気持ちです。季節も、冬から春に変わり、心身ともに世界が切り替わるという感じです。そんな3月が来ています。

春のような2月を過ごし、ここに来て三寒四温と言うような今週の気候ですが、まさになごり雪の気分を盛り上げてくれます。そんな3月、コロナウィルスのお陰で、世の中は不安な情報やギスギスした空気が流れていますが、大地は、大いに活気ある日々が連日訪れています。

毎日、10名前後の大地OBOGそして大地の兄姉達が大きなエネルギーを振りまいてくれているからです。たき火をしたり縄跳びをしたり、自転車、調理、そして大地の仕事をしたり……。ほとんど、幼児期に同じ釜の飯を食べてきただけに、見ていて本当に仲がいいし、自然な関係で遊びを楽しんでいます。何よりも、学校のように、グラウンドや遊具がなくても、どんな場所でも遊んでいます。そんな、変わらない光景を見て幸せになります。幼稚園の子ども達にとっても、どんなに幸せなことでしょう。子どもは、目上の子ども達を見て育ちますからね。

また、小学生の担当の保護者の皆さんも、連日頑張っている子ども達のためにいろいろ考えて奮闘してくれています。立派な教師達です!!。きっと、日ごとに、子ども達の世界に魅了され、そして、様々な気づきがあるのではないのでしょうか。きっと、今後の子育ての貴重な経験となると信じています。

そんな貴重な3月も終了します。この3月は、人類にとって、経済優先で過ごしてきた世界にとって、人間の暮らし、家族のあり方 子ども達の環境など、様々なことを再考する大きな機会になっているような気がします。「2050年は江戸時代」と言う本にあるように、まさに「大刷新」の時を迎えているような気がします。

3、11大震災、昨年の台風や災害、多くの自然からの警鐘を頂きながら、ほとんど変わろうとしない私たちの高慢なる暮らし方、少しずつ少しずつ暮らし方を変えていかねば 自問自答する毎日です。

4月から新学期、この気持ちを胸に子ども達と新しい世界を展開していきましょう。



【ねえ、それって子どもにとって幸せなの？】

子ども達と過ごすとき 常に切り札になるのは、「それって 子ども達は楽しいの？ 幸せなの？」と自分自身に問うことです。この楽しいは、目先の刹那的な楽しさではありません。「本当に楽しいことは、決して楽なことではない」をモットーに、主体的に活動すること、観客よりもプレーヤーになること……。など、これらも子ども達の世界に当てはまると信じています。更に、「大人自身の自己満足に過ぎないか？」という自問も大きな点です。

食事にしても給食にしても、いつも室内で机に座り、きれいに食べ終わることが幸せなのか、お弁当を毎日きれいに食べてくるのが幸せなのか……。お日様の元で、たき火を囲んで食べたり、不安定な斜面でコップや弁当をひっくり返りそうになりながら食べたり、目的地までたどり着けず道ばたで食べたり 突然の雨で弁当を半分しか食べれなかったり 子ども達を長年見ていると、このようなアクシデントなどを実に喜んでいたり、後日うれしそうに語っていることです。自然の流れ（天候など）に逆らわずに過ごす大切さを子ども達から学びます。

雨の日も極寒の真冬日も嵐や吹雪の日も、午前中はどんな悪天候でも、大地は外へ出かけます。普通は、天候が悪く、子ども達が寒そうだ、かわいそうだと思い、室内で遊んでいた方が幸せだと考えがちです。でも、大地のスタッフは躊躇せず、こんな日こそと気合いを入れて出かけます。それは、こんな日だからこそ、ドラマチックな面白いことがあると確信しているからです。大人は 寒くて嫌だとか濡れて汚れるから面倒だ などと躊躇したり、子どもは室内の方が暖かいし、楽しいだろう と思いがちです。これらも、ファンタジーの世界にいる幼児期から小3位までは、こちらの環境設定（心身共にの）だけで、真の楽しさ、幸せを提供できると信じています。

幼稚園保育園小中学校などで行われる各種行事やイベント、季節柄卒業式など。各年齢様々な中での来賓挨拶や大人の決まりきった進行など。大切な子どもの時間にとって、本当に大切かつ重要なことなのか、何も考えないでひたすら耐える受け身の力をつけるためなのか、それとも、大人が自己満足自己顕示のためにやっているだけなのか、さらに、長年やってきた慣習にのっとなって、昨年通りを何の疑いなくやってきているのか と言うことです。これらは、本当に子どもサイドに立っているのかどうかを自問自答していくことが必要ではないでしょうか。

先日行われたアカデミーの卒業式。ここ2年間は姉妹2人だけの活動で頑張ってきた。たった1家族だけになっても、ぶれずに6年間、幼児期から合わせて8年間道を貫いてきたことはすごい強さです。当初は、世にある卒業式（30分位の式）を考えていましたが、子どもも大人も主体的にプレーヤーになることこそ本当の楽しさがあると考え直してスタートしました。

大地の誕生会。誕生日の子ども達は指折り自分の誕生会を楽しみしています。決してたくさんのプレゼントをもらったあり華やかなパーティがあるわけでもないのに。どうしてでしょう？ 父母の皆さんは、お人形を作ったり、夫婦で打ち合わせをしたり。子どもは、ワッフルを作って皆に振るまい、誰からもありがとうと感謝されたり、おめでとうと言われたり、自分の思い出のものにチャホヤされたり、皆、主体的に関わって、その過程を楽しんでいるからです。

話を元に戻し、アカデミーの卒業式も、当日までの過程をたっぶり楽しもう、卒業生も在校生（たった2人）も保護者も主体的に本気に準備する喜びを持つと、更に一緒に学んだ過去の在校生も一緒に当日は楽しもう それが最高の思い出に残る卒業式（当日ではなくこの一ヶ月が全て卒業式）だと確信したからです。

過程を楽しむことの大切さ それらは、お祭りの準備期間の楽しさからも理解できるでしょう。「人は、仲がいいから一緒に食事をするのではなく、一緒に食事をするから仲がよくなる」のです。一緒に作ったり企画したり討議したり準備したりする過程を通じて、仲がよくなり 相互理解が深まります。決して、机上で議論や会話だけでは仲が良くなりません。農作業や登山など苦楽を共にして、ぶつかり合い、時にはけんかをしたりしながら深まっていくのです。それには、まず一緒に、汗を流して何かをすることが最良の道です。この過程の楽しさ、一緒に一つのものを作っていく楽しさ、幸せ感を知っていれば 人は「時間がない」「忙しい」「金がない」などの言い訳はせずに 「何とかする」と主体的に取り組む力となっていくことでしょう。

これらの根底には 「子どもにとっての真の幸せは」「大人にとっての自己満足か」「本当に楽しいことなのか」の3つのキーワードがあります。加えて 児童文学や冒険小説や登山や過去の人生体験において 楽な道と困難な道の分岐点に遭遇した時、困難な道を選んだ時の方が、結果的に面白い最高のドラマが生まれ易いので、あえて困難な道を選ぶというキーワードもあります。

コロナウィルスで人類は大変なことに遭遇しています。地球の将来を担う子ども達の真の幸せのために、この困難に見える道を、あえて選んで、私たちは 真の楽しさを求めて、言い訳しない人生を歩んでいこうではありませんか。

